

科目名 (Subject)	現代経営組織特論 Organization Theory		
単位数 (Credits)	2 単位	(開講時期)	後期
担当教員名 (Name)	加藤 敬太 (Keita Kato)	研究室番号 (Office)	311
Office Hours	初回のオリエンテーション時にお知らせします。		
<p>1. 授業目的・方法 (Course objective and method)</p> <p>本授業の目的は、経営組織論を中心とした経営学の研究方法論について学び受講生の研究活動に応用する知識を身に付けることである。経営学の領域において研究方法論について論じられた代表的な研究の古典から最新のものまで輪読していく。特に担当者の専門性を活かしてケース分析の方法論を学んでいく。</p> <p>授業方法は、毎回、予習・報告・議論・解説の順に進めていく。予習課題として、各回において指定テキストの決められた箇所を精読し A4 用紙 1 枚以上のレポートにまとめてくることを求める。各回の授業は、この予習を前提として進められる。また報告担当者は、別途、報告用のレジメを作成し報告することも求められる。</p>			
<p>2. 授業内容 (Course contents)</p> <p>① オリエンテーション 予習課題：なし 復習課題：なし</p> <p>② Allison (1971) その1 予習課題：序章・第1章・第2章のリーディングとレポート作成 復習課題：講義中の解説時に復習のポイントを示す</p> <p>③ Allison (1971) その2 予習課題：序章・第1章・第2章のリーディングとレポート作成 復習課題：講義中の解説時に復習のポイントを示す</p> <p>④ Allison (1971) その3 予習課題：第5章・第6章・第7章のリーディングとレポート作成 復習課題：講義中の解説時に復習のポイントを示す</p> <p>⑤ Burrell and Morgan (1979) 予習課題：第1章・第2章・第3章のリーディングとレポート作成 復習課題：講義中の解説時に復習のポイントを示す</p> <p>⑥ 沼上 (2000) その1 予習課題：第1章・第2章・第3章のリーディングとレポート作成 復習課題：講義中の解説時に復習のポイントを示す</p> <p>⑦ 沼上 (2000) その2 予習課題：第4章・第5章・第6章のリーディングとレポート作成 復習課題：講義中の解説時に復習のポイントを示す</p> <p>⑧ 沼上 (2000) その3 予習課題：第7章・第8章のリーディングとレポート作成 復習課題：講義中の解説時に復習のポイントを示す</p> <p>⑨ 加藤 (2011) その1 予習課題：第1章・第2章のリーディングとレポート作成 復習課題：講義中の解説時に復習のポイントを示す</p> <p>⑩ 加藤 (2011) その2 予習課題：第3章・第4章のリーディングとレポート作成 復習課題：講義中の解説時に復習のポイントを示す</p> <p>⑪ 加藤 (2011) その3 予習課題：第5章・第6章のリーディングとレポート作成 復習課題：講義中の解説時に復習のポイントを示す</p> <p>⑫ 加藤 (2011) その4 予習課題：第7章・第8章のリーディングとレポート作成 復習課題：講義中の解説時に復習のポイントを示す</p>			

⑬ 加藤 (2011) その4

予習課題：第9章・第10章のリーディングとレポート作成

復習課題：講義中の解説時に復習のポイントを示す

⑭ 井上 (2014) その1

予習課題：第1章・第2章・第3章・第4章のリーディングとレポート作成

復習課題：講義中の解説時に復習のポイントを示す

⑮ 井上 (2014) その2

予習課題：第5章・第6章・第7章のリーディングとレポート作成

復習課題：講義中の解説時に復習のポイントを示す

3. 使用教材(Teaching materials)

(使用順)

Allison, G.T. (1971) *Essence of Decision: Explaining the Cuban Missile Crisis*, Boston: Little, Brown.

(宮里正弦訳 (1977) 『決定の本質—キューバ・ミサイル危機の分析—』中央公論社) .

Burrell, G. and G. Morgan (1979) *Sociological Paradigms and Organizational Analysis: Elements of the*

Sociology of Corporate Life, London: Heinemann. (鎌田伸一・金井一頼・野中郁次郎訳 (1986) 『組織理論のパラダイム—機能主義の分析枠組—』千倉書房).

沼上幹 (2000) 『行為の経営学—経営学における意図せざる結果の探求—』白桃書房。

加藤俊彦 (2011) 『技術システムの構造と革新—方法論的視座に基づく経営学の探求—』白桃書房。

井上達彦 (2014) 『ブラックスワンの経営学—通説をくつがえした世界最優秀ケーススタディー—』日経 BP。

4. 成績評価の方法(Grading)

評 価 の 要 素	ウェイト
出席率	25 %
授業への参加度 (事例, 討論, 調査)	25 %
ホームワーク (事前課題の提出)	50 %
小テストないしクイズ	0 %
試験ないしプレゼンテーション (最終課題)	0 %

5. 成績評価の基準 (Grading Criteria)

秀 (100~90) : 経営組織論について秀でた理解力を示し、研究方法論を応用して、さまざまな経営現象について秀でた分析をすることができる。

優 (89~80) : 経営組織論について優れた理解力を示し、研究方法論を応用して、さまざまな経営現象について優れた分析をすることができる。

良 (79~70) : 経営組織論について良い理解力を示し、研究方法論を応用して、さまざまな経営現象について良い分析をすることができる。

可 (69~60) : 経営組織論について理解力を示し、研究方法論を応用して、さまざまな経営現象について分析をすることができる。

不可 (59~0) : 経営組織論について十分な理解力を持たず、研究方法論を応用して、さまざまな経営現象について分析をすることができない。

6. 履修上の注意事項(Remarks)

本授業は、博士前期課程レベルの経営学の知識と一定の研究経験があることが前提となっているので注意を要する。経営組織論の基本的理論の解説は一切行わない。すでに博士前期課程で学ぶべき経営組織論の知識を習得済の院生の受講を想定し、初回から経営組織論における研究方法論の授業を展開していく。

さらに、毎回のリーディングの分量も相当なものとなるので、その覚悟のある受講生の参加をお願いする。本授業を通じて、経営学の本格的な研究に取り組む意欲のある院生に参加していただきたい。

なお、受講者と相談のうえ、リーディングのテキストを変更することもありうる。